

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 最優秀賞

母へのおもい

鳥越中学校二年

上野うえの

結芽果ゆめか

私の母はとても優しく明るく元気です。仕事で疲れて帰ってきても一緒にバドミントンをして遊んでくれたりします。でも、私の母が怒ると、とても怖いのです。でも怒るのは私のことをしっかり思って考えてくれているからです。怒ることも優しくしてくれるのも、全部母から私への愛なのだと思います。

私が中学一年生の時です。季節は秋で部活終わりはとても暗く、家が遠いので友達と別れた後は1人でした。毎日通る自転車道路は電灯などの明かりは一つもありませんでした。自分の自転車のライトだけではとても怖く、いつも急いでペダルをこいでいました。ある日、部活終わりに自転車をこいでいる時、前から自転車のライトが見えました。誰だろうと思っていると、母が自転車をこいでいました。母は怖がりの私を思っていて途中で迎えに来てくれ、その時は本当に嬉しかったし怖さが一瞬にすくなくなりました。その日から毎日私の迎えに来てくれるようになりました。雨が降っていても迎えに来てくれたし、「おかえり」の言葉はすごく安心感がありました。毎日、前から来る母の自転車のライトを探すようになったし、母と帰るときに今日あった出来事などを話すことが楽しみになりました。怖くて嫌だった夜の自転車道路が私の楽しみに変わりました。仕事で疲れているのに私を第一に考えてくれる母の存在は大きく、「ありがとう」と感謝を伝えたいと思いました。

中学二年生の1学期の後半に学校から一枚のおたよりが配られました。そのおたよりは海外研修についてかかれたものでした。最初自分は英語が得意ではなかったので興味はあまりなかったけど、先生に相談すると「良いチャンスだから挑戦してみたらどう。」

と言われました。そこから私は挑戦してみたいと思うようになりました。家に帰って母と一緒に相談しました。とても値段が高く、私は許してもらえないだろうなと思っていたら、母は、

「結芽果のやりたいことをさせてあげたいから、挑戦してみる?。」
と言いました。とても嬉しかったし、私が挑戦したいことをやらせてくれる母の愛が一番嬉しかったです。そして私は夏休みの初めにオーストラリアに行きました。ホームステイをしたり現地の小学校を訪問したり

など普段あじわえない文化を体験することができて、とても良い経験をするのができました。母が私に挑戦させてくれたのだから、これから英語の勉強をしっかりして今回の経験がむだにならないように努力しようと思います。母の夢がニュージーランドに行くことなので、私が英語を話せるようになって将来つれていってあげたいです。

他にも私の母は「自分の挑戦したいことをしなさい」と言って、バスケットボールや習字、ピアノ、水泳、英語を習わせてくれました。習い事で上手いかなかった時にいつも私のそばにいてくれたのは母でした。練習の後コーチにたくさん怒られて泣いている時も、母は車の中で「コーチが怒るのは結芽果に期待しているからだよ。」

と言っていていつも私のとなりではげましてくれました。母がいなかったら私はずっと壁を乗りこえられなかったと思います。母という存在は私の一番の宝だと感じました。次は私が母のとなりで支えられる存在になりたいです。

私が一番好きなことは母の笑顔です。母の笑顔を見ると私も自然と笑顔になるし、テレビを見て笑う母を見るのも大好きです。なかなか母の前にして「大好き」とは恥ずかしくて言えないけど、本当に母の笑顔が私の心の癒しになってくれます。だから、私も母の癒しになるかは分からないけど、家でも笑顔で明るくすごしたいと思いました。

いつも仕事で疲れて帰ってくるのに、夜遅くまで仕事の勉強をしたり、私たちのことを考えたバランスの良い食事をつくってくれたり、洗たく干し、洋服をたたんでくれたり、いつも弱音をはかずに頑張っている母の姿はとてもかっこいいと思います。友達にも、

「結芽果のお母さん料理上手いね。」

と言ってくれるし、私の自慢の母です。これからは少しでも負担を軽くしてあげられるように母の手伝いをしようと思います。

私は母の子に生まれて良かったと思います。これからは「ありがとう」という言葉をたくさん言っていきたいです。